

(ヤングブレイン・ネットワーク21報告書)

標準的山村集落における木質エネルギー利用モデルの検討

~京都府における木質バイオマス資源を活用した山村振興~

平成14年3月

農 林 水 産 部

目 次

ページ

第 1 章 調査研究の背景とねらい

1 林業と山村が抱える課題	1
2 急を要する環境対策と木質バイオマス利用への期待	1
3 木質バイオマス導入に当たっての二つの課題	
(1) 地域資源利用の原則	3
(2) 木質バイオマスの市民権確立	3
4 検討の方向	4

第 2 章 資源量からみた木質バイオマスエネルギー利用の可能性

1 府内の木質バイオマスエネルギー利用の可能性	
(1) 人工林からの木材生産量	7
(2) 木質バイオマスエネルギー換算と利用の可能性	8
2 雲ヶ畑地域における木質バイオマスエネルギー利用の可能性	
(1) 雲ヶ畑地域の概要	9
(2) 住民アンケート調査の実施	9
(3) 資源量と木質バイオマスエネルギー利用の可能性	12

第 3 章 雲ヶ畑を木質バイオマス利用のモデル地区に！

1 モデル地区の選定	16
2 導入期(2002年～2004年)の取組方向	
(1) 山地直送(さんちちよくそう)	17
- 雲ヶ畑の木質バイオマスを利用する人達に直接供給する仕組みをつくる -	
(2) 木質バイオマスのエネルギー利用を普及啓発	17
(3) 「雲ヶ畑森林資源活用協会」の設立	18
(4) 地域通貨「クモ」の発行	18
3 発展期(2005年～2010年)の取組方向	
(1) 地山地消(ちさんちしょう)	21
- 雲ヶ畑の木質バイオマスを周辺地域で消費できる制度や仕組みをつくる -	
(2) 雇用の場の創出や「山元保証制度」の具体化	21
(3) 法人組織「雲ヶ畑森林資源活用事業組合」の設立	22
(4) 地域エネルギーの自給と地球温暖化防止への貢献	22
(5) 新たな林業振興と多様な環境貢献活動のために	23
4 行政の支援策	25